



ペンネーム	綾波 翔太郎
-------	--------

【エピソードのタイトル】

家族のために、自分のために

【エピソードの内容】

下関海峡マラソンは、私にとって大変忘れられない大会です。

私と妻は、広島愉快なマラソン部という広島のマラソンサークルで出会いました。お互いマラソンが趣味ということもあり、たくさんのマラソン大会に参加するうちに、あっという間に意気投合し、結婚しました。

婚約中だった2011年、2人で走る予定だった下関マラソンは、私が仕事の都合で走ることができず、妻のみ走りました。

妻は初めてのフルマラソンで、制限時間内に走り切るかかなり緊張していました。

当日、6時を過ぎてもなかなか妻から連絡が来ず、仕事もなかなか手がつかなかつたのですが、サークルの仲間から完走したこと、そして、無事広島に戻ってきたことを聞き、大変安心したことを覚えています。そして、妻はなんとか、6時間ぎりぎりでゴール。その日はあまりの疲れに電話などができない、翌日に話すと、とても疲れたということでした。ただ、初めてのフルマラソンにとても感動したといっていました。

2012年の3月に私たちは入籍し、妻は妊娠し、私は仕事の都合でこの年は参加できず、お互いに2013年に走ろうという約束をしていました。

そして、2012年12月、待望の息子を妻は出産、とても幸せな日々を過ごしていました。

2013年、この年は、妻はまだ幼い子どもの面倒を見るため大会への参加はできず、私の一人のエントリーとなりました。その前の週に、大阪マラソンに当選し、完走していたため、2週続けてのフルマラソンへの挑戦となりましたが、軽い気持ちで「完走できるだろう。」と思っていました。また、「妻が2年前に完走しているし、今年は父親として絶対に感想を」という強い思いのもと、走りました。

しかし、21km過ぎから思うように走れず、28kmからは歩くことしかできず、32kmの閾門で収容されてしまいました。これほど悔しい思いはありませんでした。フルは今まで何回か6時間以内には完走し、大丈夫だと思っていた自分、そして、何事もかるく考えていた自分がとても情けなく、また、応戦してくれた家族にもものすごく申し訳ない思い出いっぱいになりました。

今年はその悔しさをばねに、5時間以内の感想を目指したいと思っています。そして、ゴールでは息子に頑張っている父親の姿をしっかりと見せたいと思います。そして、今年も子どもの面倒で一緒に走れない妻の分までしっかりと走り、完走したいと思っています。